中道改革連合神奈川 12 区総支部準備版

2026 年 5 月 12 日

前衆議院議員・小児科医 No.769

あべともこニュース

立憲主義の下、生活と平和を守る外交を、

◆健康保険法改正、修正案提出

まず高額療養費の自己負担限度額の上限引き上げは、解散前の国会で、患者団体からも大きな不安の声があがり、立憲民主党からも強く石破政権に求めて、とりあえず凍結、患者さんの生活実態調査などを踏まえて引き上げの可否を検討することとなっていました。

しかし高市政権で出された改正案は、最終的には患者が生活か医療かを選ばざるを得なくなるような内容で、医療を諦めざるを得ない状況に追いやる懸念が強いものでした。

法案が参議院に回り、法案の審議に先立ち立憲民主党と公明党から修正案が出され、若い世代や中間所得層に重い負担とならないように、とされますが、果たして審議はどう進むか、金の切れ目が縁の切れ目医療の切れ目とならないことが第一です。

前衆議院議員あべともこ
プロフィール
当選 9 回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともここども クリニック（湘南台）理事長

◆皇族数確保の議論の前提は何か？

平成二十九年六月一日、平成天皇の生前退位を巡って皇室典範の特例法が決議され、その付帯決議に、「安定的な皇位継承を確保するための諸課題、女性宮家の創設等について、全体として整合性がとれるように検討を行い、その結果を国会に報告する」とある事に則って、その後検討の為の有識者会議が作られ、以下の案が提案されました。

1、女性皇族が結婚後も皇族の身分を保持する

2、旧宮家の男系男子を養子に迎える

これらを元に各党協議会も開かれ、事態の緊急性に鑑みて、今国会で十五日に結論を得るという方針が伝えられています。中道改革連合でも党内結論を急ぐ為に女性皇族は認め、そのご家族を皇族とするかどうかは今後の検討、そして男系男子の養子を認める方向と伝えられています。男系男子の養子という考えが、象徴天皇制から見て国民の総意と言えるのか、大きな疑問です。

立憲民主党時代の見解とも異なり、私自身中道党内議論にも参加できません。以前に脳死臓器移植問題で、人の死に関して国民意識を受け止める為に、脳死臨調が作られたこともあり、それに匹敵するような、国のかたちを決めるテーマだと思います。

◆イランとの友好外交を求める署名活動

今年の二月末よりアメリカとイスラエルによるイラン攻撃が始まり、すでに二ヶ月、この攻撃が国際法に抵触するとして、多くのＥＵ諸国はこれを支持せず、共同歩調もとっていません。またアメリカ国内でも、大統領の権限の肥大化を防ぐ為に一九七三年に作られた戦争権限法があり、二ヵ月以上の戦争の継続には議会の承認が求められますが、それも無視するトランプ大統領は王様のようだと批判されています。

四月上旬、停戦合意がされたものの、現実にはホルムズ海峡での船舶の通過は滞ったままで、多くの国々の経済に大きな影響が出ています。

我が国でも石油関連製品は、自動車関連産業や建築現場を始めとして影響が大きく、資材不足で悲鳴が上がっています。また物価も上がり国民生活も苦しさを増すばかりです。

日本は歴史的にもイランと友好関係にあり、政府にはこれを活かし外交で石油不足に対処することを求めて、五月三日から署名を始めました。

↓署名はこちらから

あべともこ事務所　〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1-13-13-1 F
TEL 0466-52-2680　FAX 0466-52-2681 E-mail：inochi@shonanfujisawa.com